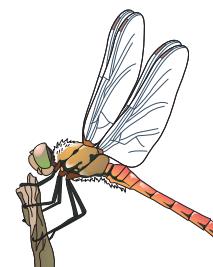




アキアカネ

★★★

アキアカネはトンボで、(1)になると、草むらなどいろいろな場所で成虫が飛んでいるのがよく見られます。「赤とんぼ」などともよばれます。



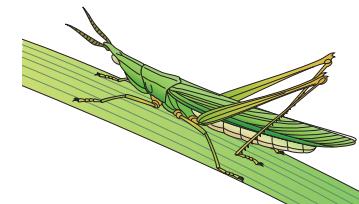
+プラスワン

アキアカネは、6月の終わりごろ田んぼなどで羽化したあと山に移動し、夏の間はすずしい山で過ごします。秋になると山から平地へ移動します。そのため、アキアカネが見られるようになると「秋がきた」と感じます。
羽化したばかりのアキアカネの成虫のからはオレンジ色ですが、成熟するにつれ赤色になります。

ショウリヨウバッタ

★★★

ショウリヨウバッタは(2)を食べるバッタで、草むらなどでピョンピョンと大きくとびはねるすがたがよく見られます。ほそりとした特徴的なからだつきをしています。



+プラスワン

ショウリヨウバッタやトノサマバッタなどバッタのなかまは、草にまぎれて敵に見つからないようにするため、からだの色が緑色や茶色です。

トノサマバッタ

★★★

トノサマバッタは(3)を食べるバッタで、草むらなどでピョンピョンと大きくとびはねるすがたがよく見られます。

成長のようす

トノサマバッタなど、バッタは(4)です。卵が(5)すると、幼虫は(6)をくり返しながら成長します。やがて幼虫は(7)し、成虫になります。



トノサマバッタは(8)で(9)に包まれた(10)のすがたで冬ごします。(11)になると卵が(12)して幼虫が成長し、夏ごろに成虫になります。成虫は(13)に卵をつけます。

トノサマバッタは(14)のサイクルを2回くらいくり返しますが、秋に産みつけられた卵は、そのまま(15)のすがたで(16)します。

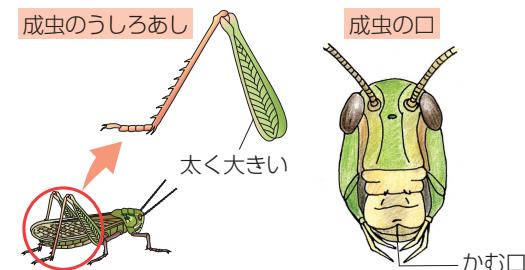
食べ物とすみか

トノサマバッタの幼虫と成虫は草むらなどにすみ、(17)を食べます。

からだのつくり

トノサマバッタの成虫は大きく発達した(18)をもち、遠くまで大きくとびはねることができます。

トノサマバッタの幼虫と成虫は草をかじって食べるため、口は(19)です。



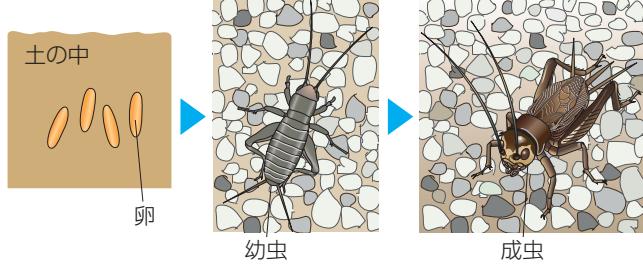
コオロギ

★★★

コオロギのなまは、草むらや畑などに生息しています。(20)になると、(21)に(22)が「コロコロリーリー」と美しく鳴くことで知られています。コオロギはおもに(23)に活動し、昼間は石の下などにいます。

成長のようす

コオロギは(24)です。卵が(25)すると、幼虫は(26)をくり返しながら成長します。やがて幼虫は(27)し、成虫になります。



コオロギは(28)で(29)のすがたで冬ごしします。春ごろになると(30)して幼虫が成長し、(31)ごろに成虫になります。成虫は(32)に卵を産みつけます。

+プラスワン

コオロギのめすの成虫は、腹の先に「産卵管」という長い針のようなものをもちます。それを土の中にさし、卵を産みます。

食べ物とすみか

コオロギの幼虫と成虫は草むらや畑などにすみ、(33)や(34)などいろいろなものを食べます。

からだのつくり

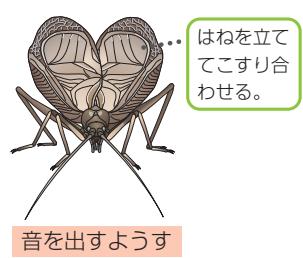
コオロギの成虫には、胸の部分にあしが(35)、はねが(36)あります。おすの成虫は、外側の(37)のはねにやすりのようなものがついていて、それらを少し立て、(38)て音を出します。



スズムシ

★★★

スズムシは、草むらや畑などに生息している昆虫で、コオロギの一種です。(39)になると、(40)に(41)が「リーン、リーン」と美しく鳴くことで知られています。



音を出すようす

スズムシは(42)です。(43)した直後の成虫にははねが(44)ありますが、やがて内側の2枚を落とし、外側の(45)だけになります。

おすの外側の(46)のはねにはやすりのようなものがついていて、それらをしっかりと立て、(47)て音を出します。

+プラスワン

コオロギやスズムシ以外にも、はねをこすり合わせて音を出す昆虫がいます。キリギリスは、夏の晩に「ギーッチョン」と音を出します。クツワムシは秋の夜に「ガシャガシャ」と音を出します。マツムシは秋の夜に「チンチロリン」と音を出します。コオロギやスズムシ、キリギリスは前あしにこまくがあり、そこで音を感じとります。

